

琉球大学学術リポジトリ

南洋廳コロール公学校『本校概況書』

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38056

S T A R T

REEL No. B-002

琉球大学

矢内原忠雄文庫

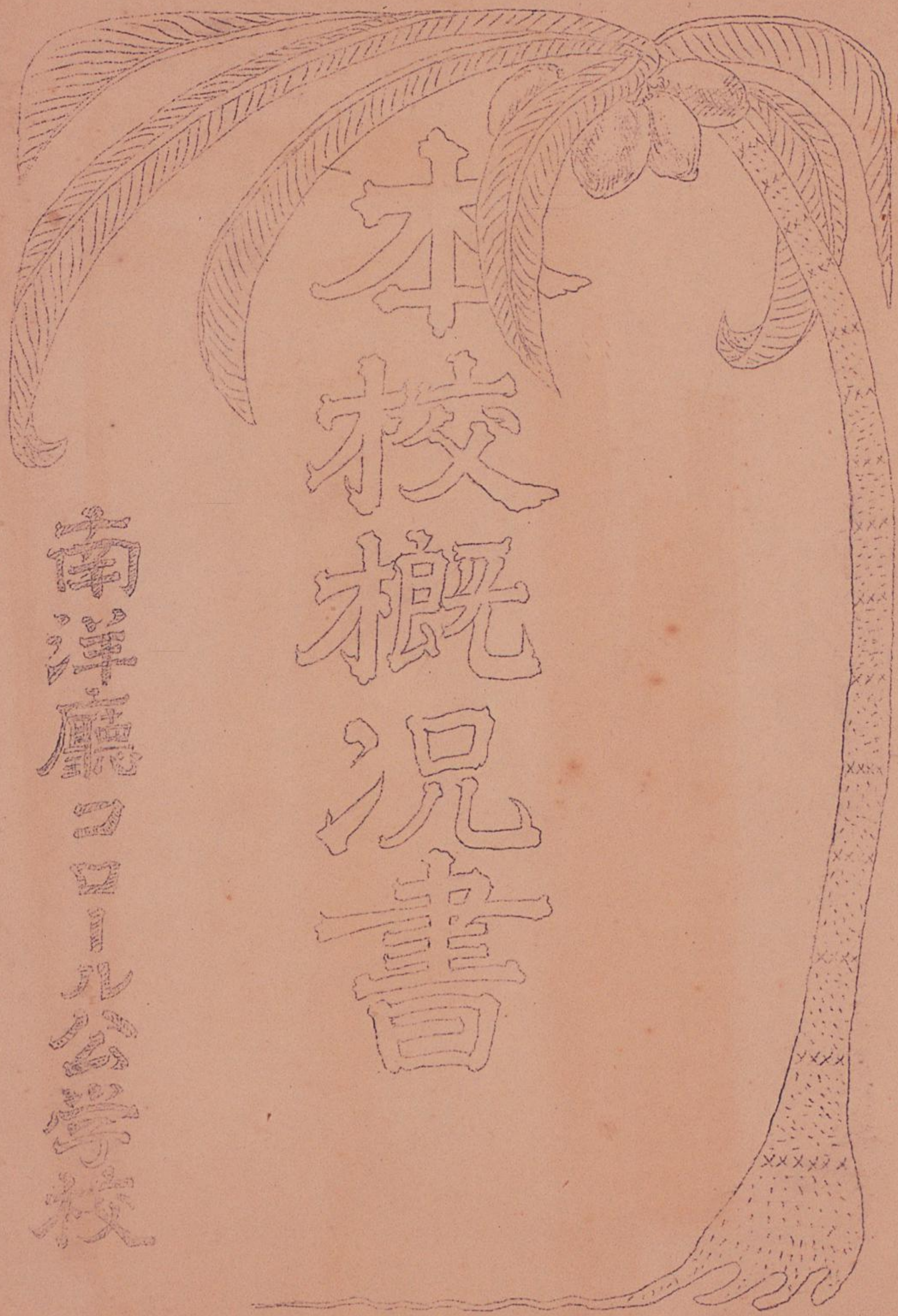
史料名	南洋廳コロール公学校『本校概況書』昭和9年頃
封筒番号	82
原文所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成17年11月9日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号： 82

史料名	南洋廳コロール公学校『本校概況書』昭和9年頃
資料形態	ガリ
枚数	15
页数	30
縦 (cm)	
横 (cm)	
厚さ (cm)	
書誌的事項	南洋 書き込みあり／ホチキスはずしたほうがよい 今泉分類記号： N

376
NA



本校概況書

南洋羣島ヨール公学校



1/11

目次

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 一 校地及校舍 二 學校經費 三 修業年限 四 兒童入學區域 五 學級編制 六 兒童種族別 七 就學狀況 八 兒童年齡 九 兒童出席歩合 一〇 卒業生 | <ul style="list-style-type: none"> 二 教科目及教授時數 三 職員 四 訓育ノ努力 五 兒童ノ養護 六 寄宿舎 七 學用品及食糧費給與 八 兒童文庫 九 事務分掌 一〇 對外的施設 一一 練習生ノ派遣 一二 社會教育 |
|--|--|

學校沿革大要

大正四年三月 萬代パラオ守備隊長本校ヲ創設ス。
 創設當初ハ單ナル日本語教授所ニ過ギズ。
 大正四年十二月 南洋群島小學校官制公布セラレ當校ハ南洋群島パラオ小學校ト命名開校ス。
 大正七年八月 南洋群島小學校ノ名称ヲ南洋群島島民學校ト改メラレシヲ以テ本校ハ南洋群島パラオ第一島民學校ト改稱ス。
 大正八年三月 校舍新築落成ス。
 大正八年十月 補習科ヲ設置ス。
 大正十一年四月 南洋廳設置ニ伴フ官制改革ニ據リ南洋群島島民學校ハ南洋廳公學校ト改稱セラレシヲ以テ本校ハ南洋廳パロール公學校ト改稱ス。

大正十四年五月 現校地ニ移轉現校舍新築落成ス。
 大正十五年五月 小學校ト分離ス。
 木工徒弟養成所ヲ附設ス。

□ 學校ノ現状

(一) 校地及校舍

1. 校地面積	四八八四・八六五坪
2. 校舍坪數	一三五・五〇〇坪
3. 附属建物坪數	一八・四一〇坪
4. 寄宿舎建物坪數	
合 監 室	一三・五〇〇坪
男 寄 宿 舎	四八・〇〇〇坪
女 子 寄 宿 舎	一六・五〇〇坪
其 他	八・五〇〇坪

5. 農業實習地坪數

(二) 學校經費(學校ニテ經理ノ分)
 昭和八年度 四三九六圓

(三) 修業年限

南洋廳公學校ハ本科ヲ本体トスレドモ土地ノ狀況ニヨリ
 補習科ヲ設ク當校ハ本科補習科ヲ併置セリ。
 修業年限左ノ如シ。

本 科 三 年
 補 習 科 二 年

本科ニハ滿ハカニ達シタルモノヲ入學セシメ補習科ハ卒業生ヲ入學セシム。現今パラオ支廳管内ニ補習科ヲ設置スルハ本校ニミナルヲ以テ他校ノ卒業生モ收容ス。

(四) 児童入學区域

本科 コロール村・バベルダオブ島ノ一部及南方離島

補習科パラオ支廳全管内
 (五) 學級編制
 昭和八年七月現在

學級	年	児童数		担任
		男	女	
第一學級	本科第一學年	一五	二七	菊地訓導
第二學級	本科第二學年	二八	二〇	野元訓導
第三學級	本科第三學年	二七	二〇	佐藤訓導
第四學級	補習科第一學年	五二	一七	福岡訓導
第五學級	補習科第二學年	四三	八	富樫訓導
計		一六五	九二	

補習科 93名
 本 69名
 補 24名

本 12名
 ソ 1名
 フ 2名

(六) 児童種族別

昭和八年四月現在

種族	性別		種族
	男	女	
子ヤム口族			邦人島民混血児
本科第一學年	一	三	二
本科第二學年	二	四	一
本科第三學年	二	五	三
補習科第一學年	一	二	一
補習科第二學年	一	四	二
計	一	一五四	九

(七) 就學ノ状況

島民ノ公學校就學ハ義務教育ニ非ルモ義務ノ如ク感ゼムル様督励ニカム。児童ノ調査ハ戸口簿ニ據ルモ諸種ノ事情ノタメ事實ト相違スル莫多アリ又一面遠隔離島ノモハ就學ヲ止ムセザルモノアリ。爲ニ

不就學ノ者アルヲ見レズ

本科児童就學歩合 昭和八年四月末現在

性別	就學児童數	不就學児童數	就學歩合
男	一三六		九四・四四
女	一〇五		九三・七五
合計	二四一		九四・一四

(八) 児童 年數 昭和八年三月現在

最高 一八年
最低 八年

吹上り分半進退學十四名、内二名ハ轉校、他ハ病欠不可知ナ

(九) 児童出席歩合

月	出席率	平均	児童		平均
			男	女	
三月	九七・八九	九三・五四	九二・五〇	九五・〇四	九四・二一
四月	九七・八二	九二・五〇	九七・二二	九六・七六	九三・三六
五月	九七・五三	九七・二二	九九・六七	九七・五五	九八・五〇
六月	九七・二五	九七・二二	九九・〇〇	九六・六〇	九八・〇四
合計	九四・二五	九六・八二	一〇〇・〇〇	九五・五一	九七・八三

(十) 卒業生 創立來昭和八年三月迄ノ卒業生總數

性	本科	補習科	合計
男	三二〇	三五四	六七四
女	二五一	三〇四	五八一
計	五七一	六五八	一〇五五

◆卒業生ノ指導

1. 就職口ノ周旋

毎年卒業期ニ際シ各官署各商店其他一般家庭ニ卒業生需要ヲ照會シ就職ノ周旋ヲナス。

2. 木工徒弟養成所入學推薦

卒業生中成績優秀ナルモノハ木工徒弟養成所へ入學推薦ヲナス。

本校卒業生中現今入所生七名公所卒業生十八名アリ。

3. 小學校入學

成績優秀者ヲ小學校ニ入學セシメ邦人ト同様ノ教育ヲ受ケシムル様之ガ實現ニカム。

4. 内地留學

成績優秀者ヲ内地ニ留學セシムル様先年

三島通陽子君ノ厚意ニヨリ左記ニ留學卒業セリ

東京府立農藝學校 卒業 一名

東京理科醫學專習學校 卒業 一名

5. 各種講習會開催

卒業就業指導ノタメ今日迄ニ開催セシ講習會左ノ如シ。

。木工講習 男子

。ミシン講習 女子

。彫刻講習 男子

6. 青年團入團勧誘

卒業生ハ全部入團セシムル様奨励ヲナス。

(十) 教科目及教授時數

修身	本科第學年	第二學年	第三學年	補習科第學年	第二學年
一	一	一	一	一	一

(三) 職員

訓導ハ木立徒係養成所講師ヲ兼任ス(六名)

氏名	官職	資格	本校就職年月日
氏 名	官 職	資 格	本校就職年月日
佐藤 碩成	訓導長	小本正	昭和三年六月
本間 末吉	訓導	小本正	大正十五年八月
野元 辰美	訓導	小本正	昭和八年四月
富樫 保治	訓導	小本正	昭和七年四月
菊地 發郎	訓導	小本正	昭和六年六月
福岡 定夫	訓導	小本正	昭和五年七月
堀ヨシエ	囑託	尋正	昭和七年三月
ヨハイ	助教員		昭和二年五月
井関 鼎	學校醫		大正十五年八月

合計	家 事	農 業	体 操	唱 歌	手 工	図 画	理 科	地 理	算 術	語		国	
										書 方	綴 方	話 方	読 方
二 三			二	一	一	一			五	一		五	六
男 二 女 二	男 一 女 一		二	一	一	一	一		五	二	二	二	六
男 二 女 二	男 二 女 二		二	一	一	一	二		五	二	二	二	六
男 三 女 二	男 二 女 二		四	二	一	二	一	一	四	二	二	一	六
男 三 女 二	男 二 女 二		二	一	二	一	二	一	四	一	二	一	六

〇夜ヲニ味加ニ理地ハ史歴

(三) 教授ノ努力

教科目教授時數 教授要目等ハ法規ニヨルハ勿論ナルモ
國語力 教理力 (特ニ応用力) ニ於テ邦人児童ニ比シ
遙カニ劣ルヲ以テ之レニ是レヲ置キ之カ指導ニ努カス
本校児童ノ比較的成績良好ナルハ技能科目ナリ。

(四) 訓育ノ努力

◆ 訓育ノ目標

『善良ナル人ヲツクル。』 人類ノ一員トシテ善良ナルモノヲツクル。ヲ
以テ目標トセリ。

◆ 訓育ノ方法

1. 修身科徳目ノ実践

修身科徳目ハ南洋廳公學校修身科要目ニヨルモノ
ニシテ大体教育勅語成申詔書中ニ示サセ給ヘル
一般人類的ノ徳目並ニ島民トシテ特ニ必要ナル

事項ニヨリ定ム。

右徳目ノ實踐指導ニツイテハ島民ノ道德觀念ノ
基調ニ適スル様留意シツツアリ。

2. 児童心得ノ徹底

本校児童心得ヲ制定シテ平素各科教授ノ際之カ
指導ヲナスハ勿論ナルモ 特ニ左ノ場合ニ趣ヒ日ノ
徹底ヲ期ス。

- 毎學年始 —— 入學式
- 毎學期始 —— 始業式及終業式
- 毎月始 —— 月次教訓
- 毎日 —— 朝會

右訓話ハ學校長 教務主任 當直職員之ヲ行フ。

3. 児童性行ノ善導

本校児童通有ノ性行欠矣ヲ調査シ之カ善導ニ努ム。

◆本校児童、性行欠矣

イ責任觀念薄弱シ

ロ勤勞精神乏シ

ハ清潔整頓ノ念極メテ乏シ

ニ衛生思想乏シ

ホ時間觀念乏シ

ヘ思考創作ノ念乏シ

ト耐久力乏シ

チ自立ノ念薄シ

リ向上心乏シ

又生活低級ナリ

◆右欠矣ニ對スル善導方法

イ責任觀念ノ養成

児童ニ命ジタル事項ヲ履行セシヤ否ヤヲヨク檢ス。

児童ニ各種役員(級長・副級長・掃除係・看護係
舍生長・組長・炊事係等)ヲ任命シ夫々主管事

務ニ就テ十分責任ヲ以テ當ラシム様ニ指導ス。

凡テ命ジタル事項ニ就テハ結果ヲ報告セシム。

ロ勤勞精神ノ養成

各學年トモ每週一時間宛課外時間ナルモヲ設ケ

各種ノ勤勞作業ヲ課ス。

現在ノ農業實習地ハ全部生徒ノ開墾作業ニ

ヨルモノナリ。又放課後ノ時間ヲ利用シ椰子細工

木工彫刻等ヲナサシム。

ハ清潔整頓觀念涵養

毎日當番ヲ定メ校舎校地ノ掃除ヲ履行セシム。

毎月学校内外ノ大掃除ヲ執行シ物品ノ整頓

検査ヲ行フ。

ニ衛生思想ノ普及

毎日朝夕洗身ヲ厲行セシム。

毎月一日十五日ニ容儀検査ヲ行ヒ児童身辺

ノ非衛生ヶ所ヲ指摘シ指導ヲナス。

學校ニ理髮器械ヲ備ヘ児童相互ニ散髮セシム。

就眠ヲ十分ニトル様常に指導ス。

ホ時間觀念ノ養成

毎日始業及毎授業ノ時間ハ正確ヲ期ス。

學校主催ノ儀式及各種会合ノ時間ヲ厲行スル

様ニカム。

時間勵行ニ違背スルモノハ罰則トシテ作業ヲ

課ス。

常に時計ニ親マシムル様ニカム。

六月十日ニ八時ノ記念日ノ訓話ヲナス。

ハ思考創作念ノ涵養

各科教授ノ際之ガ指導ニ留意ス。

思考創作ニ伴フ快味ヲ味ハシムルコトニカム。

ト耐久力ノ養成

作業及各科教授ノ際之ガ指導ニ留意ス。

ニ自立ノ念ノ養成

自立ノ念ノ必要ナルコトヲ常に訓話ス。

自學自習ヲ奨励ス。

學用品及食糧醫療費等ノ自辨ヲ勸ム。

リ向上心ノ養成

利那主義ヲ打破シ常に理想ニ向ッテ進ム様

指導ヲナス。

文明民族ノ状況ヲ知ラシメ之ガ指導ニカム。

又生活上ノ指導

全前

(五) 児童、養護

◆生理的知識衛生思想ノ普及
 修身理科家事ノ教授ニ於テ之ガ指導ヲナス。
 校醫ヨリ衛生上ノ講話ナス。
 病氣ノ手當

フシハニ見
 (負財) 義
 イニ 千
 内外ア

◆學校ニ應急藥及応急処置用品ヲ設備ス。
 毎週火曜日ニフラインペシヤ児童ノ無料治療ヲナス。
 醫療費ハ校醫ト打合セ無料又ハ低額ノ便ヲ計ル。
 トラホーム患者ニ對シテモ通院治療ヲ受ケシム。
 毎年秋回葉便検査ヲ行ヒ寄生蟲保有者
 夫々治療ヲ受ケ服藥セシム。

(六) 寄宿舍

本校ニ寄宿舍ヲ設ケ遠隔児童ヲ收容ス。
 寄宿舍ハ男子部 女子部ニ分ツ。

◆寄宿舍児童数

昭和八年七月一日 現在

計	性年		計
	男	女	
一	一		第一学年
三	三		第二学年
一	一		第三学年
四	三	一	補習科 第一学年
二	八	四	第二学年
一	一	七	計
九	二	五	
六	一	六	
六	〇		

◆寄宿舍ニ於ケル日課

1. 起床 呼 午前 六時
2. 掃除 呼 男自六時半 至七時
女自六時 至七時
3. 洗顔 洗身 女自六時半 至七時半
男自六時 至七時
4. 朝食 午前 七時
5. 校食 午前 七時四十五分
6. 晝食 正午
7. 夕食 午後 七時
8. 莫呼 午後 五時半

9 掃除
 10 洗身
 11 自習
 12 莫呼消燈
 八時
 男自五時半至六時
 女自六時至六時半
 男自六時半至七時
 女自五時半至六時半
 自六時半至七時

(七) 學用品及食糧費給與

教科書ハ全部給与ス。其他學用品ハ一定額児童一人當本科ハ虎圓五拾錢補習科ハ其圓ノ範圍内ニ於テ必要品ヲ給与ス。

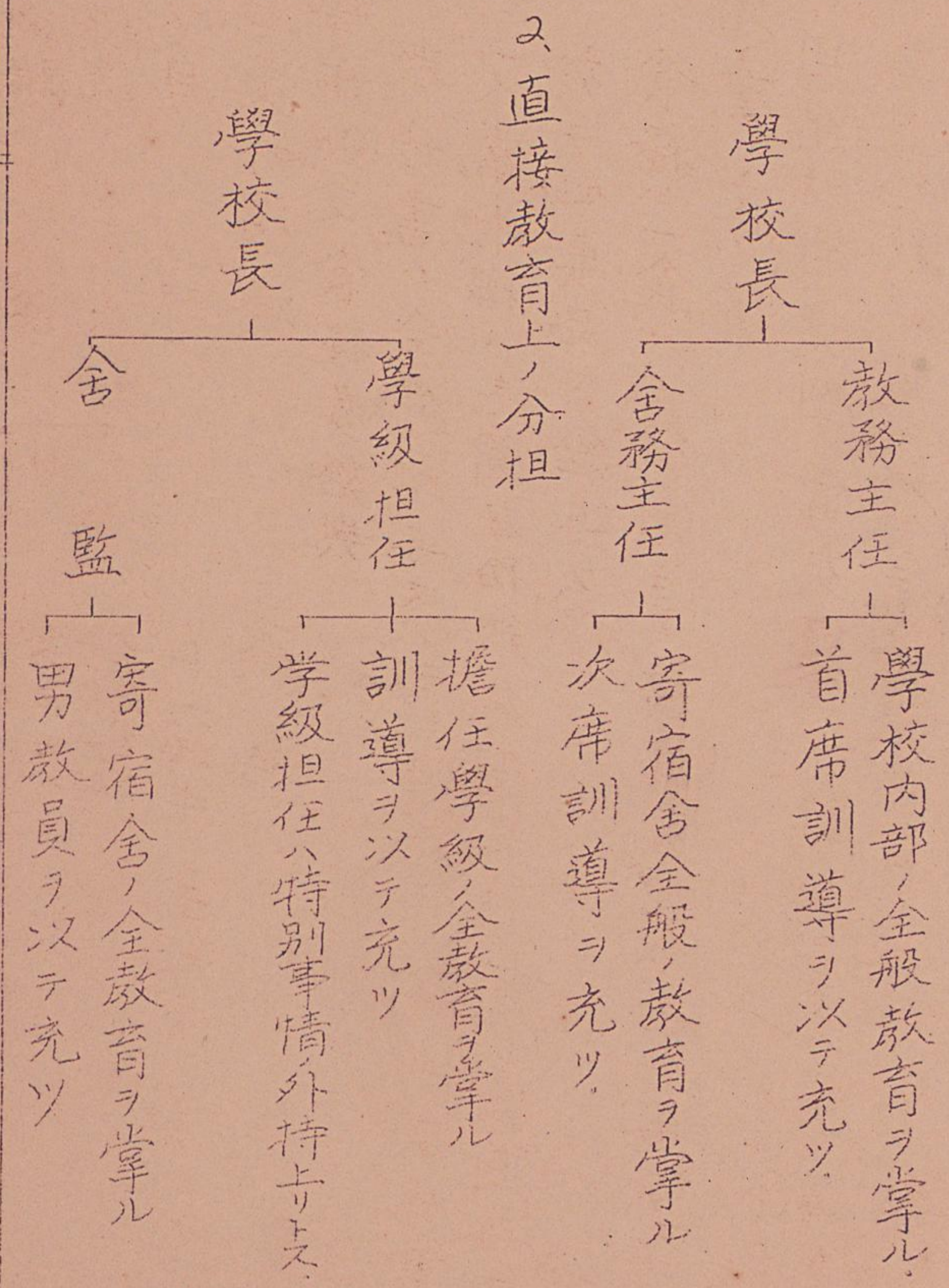
食糧ハ一食六錢ノ割ニテ寄宿児童全部ニ給与ス。

(八) 児童文庫

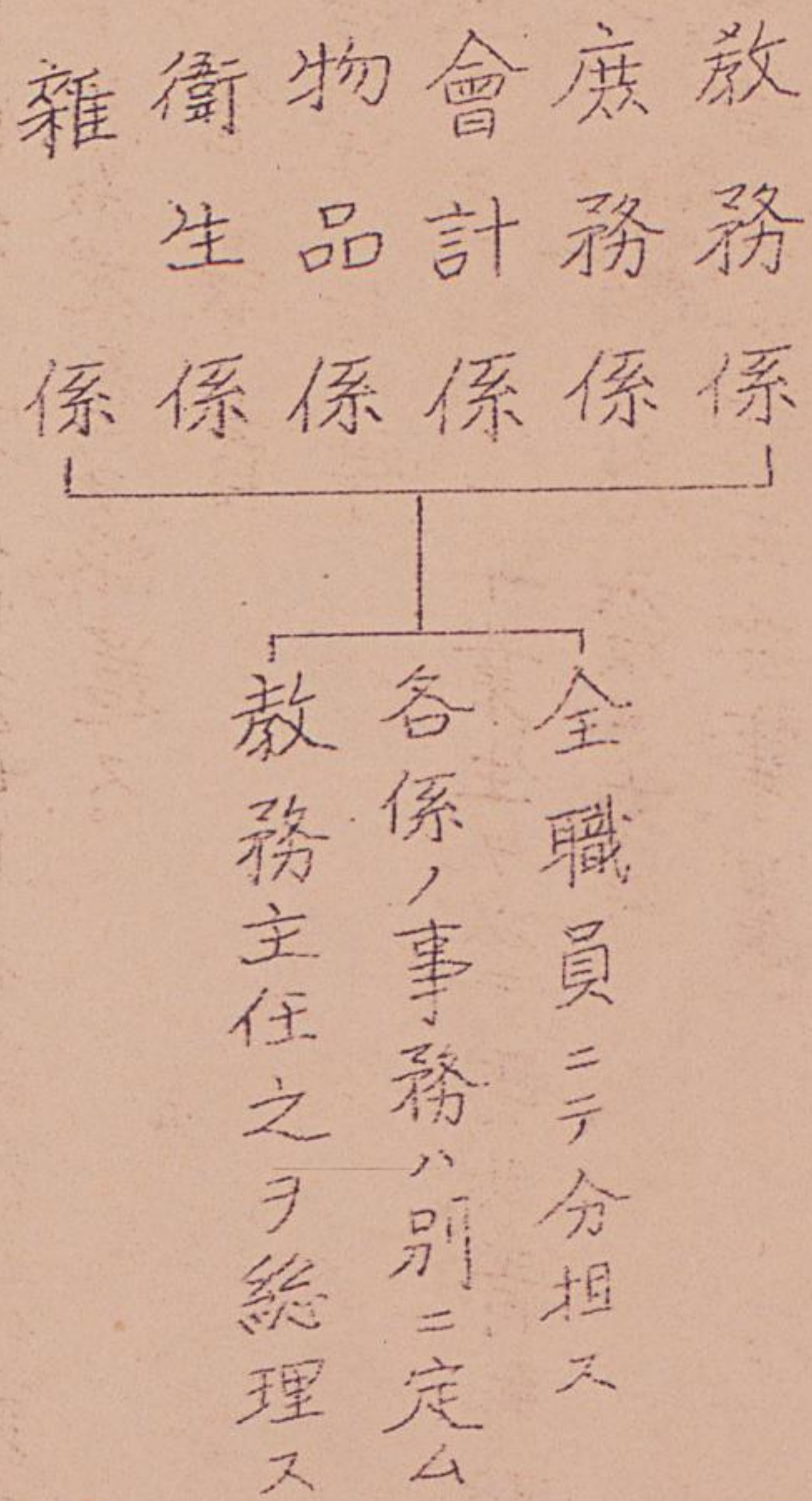
恩賜財團奨學會交付金ヲ以テ児童文庫ヲ設ケ毎日放課後或ハ休日ニ開覽セシム。現在藏書冊數百七十餘冊アリ。

(九) 事務分掌

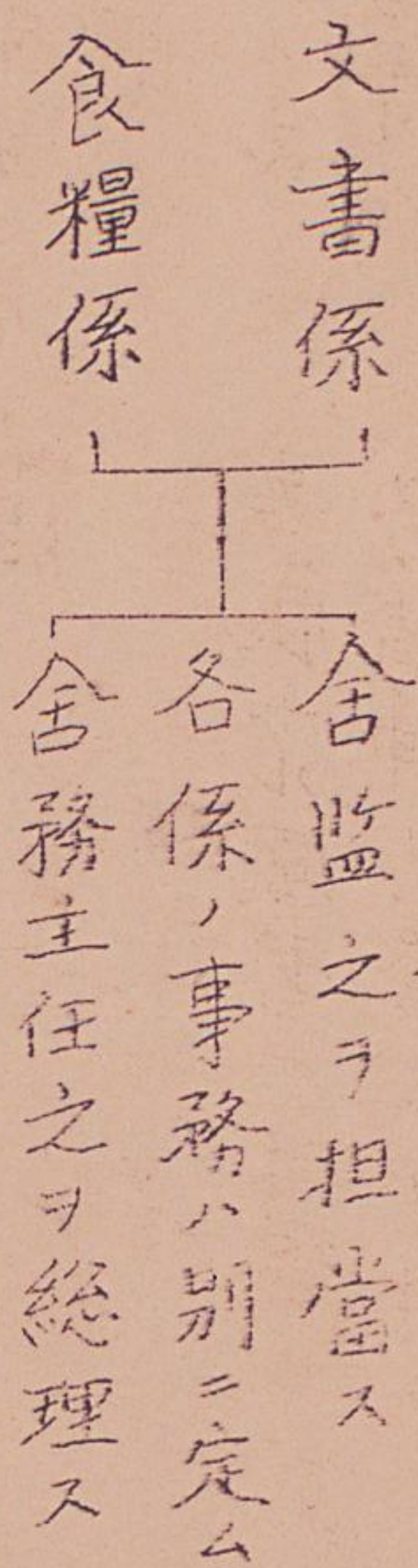
統制上ノ分担



3. 校務遂行上ノ分擔



4. 舍務遂行上ノ分擔



對外的施設

(三) 練習生ノ派遣

目的

邦人家庭ノ善良ナル風習ニ接觸セシメ日用邦語ノ習得並ニ勤勞精神ノ養成ヲ計ラントスルモノナリ。右趣旨ニヨリ在住邦人家庭ヨリ家事用ホーイ使用願出ヲ受クルハ毎日放課後該家庭へ練習生トシテ児童ヲ派遣ス。

(三) 社會教育

青年指導

校下各村別ニ卒業生ヲ以テ男女青年團ヲ組織シ之ガ指導啓發ニ力ム。

◎ 青年團 主要事業

◎ 修養

總會ノ際修養講話ヲナス。
 実践事項ノ決議実行ヲ促ス。
 心要ナル各種ノ社會的知識ヲ授ク。

◎事業
 奉仕的ノ事業ヲナス。

共同收益事業ニ従事ス。

今日迄ニ南洋貿易株式會社ノ荷役ヲハ
 數回請負セリ。

◎体育

毎年体育デー運動會ニ参加ス。

庭球野球各種競技ノ練習ヲナス。

女子青年團ノ事業ハ男子以外ニ家事部ヲ設ケ
 家事裁縫手藝等ノ指導ヲナス。

◇校下青年團員數

團名	男子	女子	計
コロール青年團	七〇	九〇	一六〇
アイライオン	五二	五〇	一〇二
アイミリイキオン	三五	三二	六七
アルモグイオン	三五	三二	六七
計	一九二	二〇四	三九六

2. 一般島民指導

時々修養講話會ヲ開ク。

活動写真ヲ公開シ知識啓發ニカム。

◆指導指針

イ 精神的指導

◎日本ノ統治精神ヲ了解セシムルコト

- ◎ 彼等ノ道德觀ヲ善導スルコト
- ◎ 特ニ厄記觀念ノ善導ニカムルコト
- 報恩感謝ノ念
- 責任觀念
- 時間尊重ノ念
- 自立自營念
- 勤勞尊重ノ念
- 人世觀
- ◎ 世界ノ大勢ニ留意セシメ熱帯住民ノ通弊ヲ悟ラシムルコト
- ◎ 金錢ノ有難味ヲ悟ラシムルコト
- ◎ 金錢ノ正キ使用法ニ對シテ蓄積ヲ知ラシムルコト
- 只實際的指導
- ◎ 適當ナル職業指導ヲナスコト
- ◎ 島民各方面ノ幹部ヲ養成スルコト
- ◎ 教育機關ノ完備ヲ計ルコト
- ◎ 内地留學者ヲ多ク出スルコト
- ◎ 生活上ヲ計ルコト

